

和歌山県立医科大学附属病院 リウマチ・膠原病科 卒後初期研修プログラム

【当診療科の概要】

当講座は、平成 27 年 10 月に新設された和歌山県立医科大学 8 つめの内科診療科です。平成 28 年 5 月にオープンしたリウマチ・膠原病センター外来の中心診療科であり、病床は 11 階西病棟にあります。リウマチ・膠原病センターとは、当科を中心に、リウマチ・膠原病治療を担当する科（整形外科・皮膚科）が同じフロアでブースを並べて診療できる外来であり、和歌山県では初めての試みです。

【当科における初期研修の目標】

1. 関節炎疾患、不明熱、全身性自己免疫疾患、全身性自己炎症性症候群などの診断方法を学び、自らが検査を選択して確定診断ができるように教育します。
2. またこれら疾患の内科的治療法を学んでいただきます。当科の治療は、ほとんどの場合、①抗炎症療法、②免疫抑制療法あるいは③生物学的製剤ですが、以前と異なり数多くの薬剤が使用できるようになりました。関節リウマチでは、TNF や IL-6 シグナルを阻害する薬剤や JAK 阻害薬が使用できるようになり関節予後は著しく改善しましたが、これらの薬剤を使用するにあたりその特殊な副作用を知っておく必要があります。また全身性エリテマトーデスを含む膠原病では副腎皮質ステロイド治療が中心になりますが、そのステロイドの正確な使い方や副作用の予防法などを詳細に学ぶことができます。
3. 当科で行う診断技術に①関節超音波検査、②抗核抗体検査をはじめとした免疫学的検査の解釈、があります。入院患者および外来患者を受け持つことで、実地診療におけるスキルアップを図ります。



4. リウマチ・膠原病診療は免疫抑制治療が中心となるため、合併症として日和見感染症が高頻度に起こりえます。特に副腎皮質ステロイドは多くの科で多用されますが、

その副作用は投与量によって異なり、常に注意が必要です。当科は全身性疾患であることから、このような合併症の治療も含めた総合診療科的要素をもつため、入院患者を診療することで総合的な臨床力を養ってもらいます。

5. 興味深い患者さんを担当した場合、病棟診療のみならず症例報告を行ってもらいます。その発表にはコツがあり、それらを若いうちにしっかり習得することが重要ですがその機会が得られるようにします。当科では WakaURA コホート (Wakayama medical University RA コホート=関節リウマチ患者の臨床データベース) に連動して血清もバイオバンク化しており、当科に興味のある方はさらに進んだ臨床研究も提案します。

【担当する疾患】

関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、強皮症、多発性筋炎・皮膚筋炎、血管炎症候群、混合性結合組織病、シェーグレン症候群、抗リン脂質抗体症候群、血清反応陰性脊椎関節症、IgG4 関連疾患、ベーチェット病、再発性多発軟骨炎、リウマチ性多発筋痛症、成人スティル病、回帰性リウマチ、線維筋痛症など

【週間スケジュール】

月曜日 臨床カンファレンス

水曜日 外来見学

木曜日 入院患者カンファレンス・教授回診